

報告会

(1) 実施要領

1) 実施日時

平成22年2月1日(月) 18時00分から20時30分まで

2) 場所

岡崎市図書館交流プラザ りぶらホール

3) 出席者

・専門家

及川 亘弘 (株)流通まちづくりコンソーシアム 取締役

小出 和郎 (株)都市環境研究所 代表取締役所長

・商業者代表

佐谷 智 岡崎東康生町協同組合 代表理事

松井洋一郎 まちゼミの会 代表世話人

・岡崎市役所

加藤 邦彦 岡崎市副市長

平松 隆 企画財政部次長

・商工会議所

・岡崎都心再生協議会(中心市街地整備推進機構)

・商業者(中心商店街代表者、若手商業者)

・市民・住民(チラシ回覧)

・りぶらサポータークラブ

・げんき館市民会議

・市職員(推進委員会、職員一般)

・報道関係者(NHK、中部経済新聞、ケーブルテレビミクス)

・事務局

若原 圭子 (株)ソフトクリエイション研究員

合計約180人

4) 進行内容

-) ご挨拶 岡崎市副市長 石川 優
-) 報告 岡崎市中心市街地の活性化の状況について (資料1に基づき、市担当より説明)
-) 報告 診断・助言事業の結果について (資料2に基づき、事務局より説明)
-) 講演 第1部 小出和郎
-) 講演 第2部 及川巨弘
-) パネルディスカッション

「活性化のために取り組むべきことは何か」

・パネラー

- 及川 巨弘 (株)流通まちづくりコンソーシアム 取締役
- 小出 和郎 (株)都市環境研究所 代表取締役所長
- 佐谷 智 岡崎東康生町協同組合 代表理事
- 松井洋一郎 まちゼミの会 代表世話人
- 加藤 邦彦 岡崎市副市長

・コーディネーター

- 平松 隆 岡崎市企画財政部次長
-) 質疑応答(会場の市民)
-) 閉会のご挨拶 岡崎市副市長 加藤 邦彦

(2) 実施結果

1) 開会

- ・石川副市長より開会の挨拶
- ・本日は大勢のご参加ありがとうございます。
- ・本市の中心市街地は大型店の郊外移転などから中心市街地の空洞化が懸念され、旧基本計画を策定し、市街地整備と商業活性化をテーマに進めてきたが、市街地整備だけでは中心市街地の活性化は困難だった。
- ・国はまちづくり三法を改正し、本市も昨年度新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、商店街等の真剣な取組、りぶら、プロムナードなどの整備を進めてきた。
- ・その効果もあり、賑わいの回復など一定の成果もみられていたが、岡崎市の中心市街地の商業の要であった松坂屋岡崎店が昨日閉店となった。
- ・このような状況下、今年度応募した診断・助言事業を通じて、課題や本市が求める中心市街地の活性化像を再度確認して、取組の必要性を改めて認識をした。
- ・これは経済産業省の支援事業で、専門家の的確な診断・助言を受けることにより推進の支援をいただくもので、地元商店街、市民の皆様にも多大なご協力をいただきながら実施してきた。
- ・本日はこの事業を通して認識した課題やアドバイスを報告するとともに、皆様のご意見をいただき、今後の活性化に活かしていきたいと考えている。今後ともお力添えをいただきながら推進していきたい。

2) 報告 岡崎市中心市街地の活性化の状況について

- ・資料1に基づき、事務局から説明

3) 報告 診断・助言事業の結果について

- ・資料2に基づき、事務局から説明

4) 講演 第1部 小出和郎

- ・資料3に基づき説明。要旨は以下の通り。

- ・商業の活性化とまちづくりは車の両輪。岡崎はそれなりの達成度があるが足りなかったことはなにか。商業者の意識と行動。まちづくりへの展開、あるいは連動が不十分
- ・岡崎の城下絵図をみると、町屋地を含んだ城構えの城下町であり、また、あまり例のない都市の発展をしたまち。いろんな可能性がある。川も素晴らしく、財産をもっているまち。
- ・新しい計画の方向性として、康生地区は情報センターを目指すこと。区域はやや広いので歴史 + 文化 + 都市情報に関連したネットワークでつなぐことと思う。
- ・康生地区と岡崎城 + 川がまちの顔
- ・シビックプライドという本をみて、「岡崎を、康生を、もっと楽しくする」、そして公共空間を楽しく、快適にというのが岡崎の目標ではないかと思う。

5) 講演 第2部 及川亘弘

- ・資料4に基づき説明。要旨は以下の通り。
- ・岡崎のまちづくりにおける優位性は、伝統・文化の薫る都市の高質性、経済基盤の安定性、まちづくりへの着実な取組、すぐれた個店（専門店）の存在、地域に誇りを持つリーダーの活動などにある。
- ・ただし、課題として、分散的な主要交通動線や、都市機能や商店街が分散的で空洞化が進行していること、岡崎イオンモールという完成度の高い大規模集積があること、まちづくりに対する理解が薄く、まちづくりを誘導する一体的組織の未整備などあげられる。
- ・一方、経済環境や、国の方針、消費者の意識、環境意識など、地域活性化・まちづくり環境が変化してきている。
- ・岡崎市においても、再々開発の課題、松坂屋の撤退等の環境変化がある。
- ・そのなかで、文化と歴史の香りに満ちた賑わいと楽しさ溢れる岡崎のまちづくり、岡崎のショーケースとしての中心市街地を活性化の方向として提言したい。
- ・具体的には、地域生活支援型（生鮮品、生活雑貨など）の商業・サービス機能の再整備や、個店の更なる強化と連携による集積性の実現、新業態・新業種の孵化装置の導入、マネジメント力の強化を目指した組織の形成などを提案する。
- ・新文化会館の可能性は転換のチャンスだが、完成までに3~4年かかる間の工事のダメージは大きい。直近4~5年の短期的施策が必要。
- ・市民が主役。自分たちで何ができるか。自分の価値、岡崎市の価値を再考し、足りないものをどうつくるかを考える。その結果、3年、5年、10年後に歴史文化にぎわいのあるまちづくりができたときに、中心市街地がどういう役割になるかを考えることだ。

6) パネルディスカッション

「活性化のために取り組むべきことは何か」

- ・要旨は以下の通り。

平松

- ・商店街の理事を代表して、商店街の課題についてご意見をいただきたい。

佐谷：商店街の運営・課題について

- ・康生地区に衣食住が揃っていない。
松坂屋岡崎店が閉店した。決定的に飲食店が少ない
- ・商店街の活動状況
15商店街があり、270店舗あるが、多い商店街で40店舗、少ない商店街は6店舗で構成されている。活動を維持するだけで精一杯。緩やかな連合組織を基盤とした大きな組織を考えなければいけない。
- ・人材不足と後継者問題
いないというより、新たな経営者を引き付ける魅力ある商店街を作ることが必要

- ・空き店舗や土地の活用
地産地消をキーワードに康生交番隣地に長誉と八丁味噌をコラボしたものを作れないか企画中。
- ・縦割り行政の弊害をなくしてほしい。中心市街地関連は一つの部署に集まり情報を共有化できるようにしてほしい。

平松

- ・及川先生アドバイスをお願いします。

及川

- ・アメリカにフードデザート、食の砂漠化というも問題が起きている。生鮮食品の入手しにくい地域は健康や寿命で差が出てきているという。新しい文化会館ができれば、質の良い生鮮の事業も参入すると思うが、それまでの間に「地産地消」で地域の生鮮品を作っていくことが必要。生鮮品の元気なまちには底力がある。
- ・組織化はやりたい人を中心に緩やかな組織を作り成功のファクトを実現し、継続していくことだ。ハッピーリタイアメントの仕組みも必要。
- ・地域にたくさんの人材を育て発掘することが重要。

平松

- ・若手商業者グループを代表して、松井さんにご意見をいただきたい。

松井：まちゼミについて

- ・まちゼミは皆さんに喜んでいただいている。全国で注目され、すでに15か所くらいに話をして行っている。今年か来年にはまちゼミサミットもやっていきたい。
- ・持論だが個店の活性化なくしてまちの活性化はない。そして商店街や中心市街地は絶対になくしてはならない。コミュニティの中心でなければならない。
- ・活性化しなければいけないと思っている。仲間でビジョンをたて、10年計画を作った。少子高齢化に対応し、まちなか居住、高齢者に優しいまちを作らないといけない。
- ・松坂屋が閉店した。勉強会やまちゼミ、少子高齢化対応事業などは自分たちでできるが、大型店の撤退への対応は民間だけではできない。文化会館の誘致を付随する周辺の商業・サービスも併設して、民間と行政が手を組んで、3~5年で進めないといけない。力を貸していただいて、一緒に頑張っていたきたい。

平松

- ・10年計画は整理されて個々の取組についても書かれている。このようなものはほかでも見たことがないと思うが、及川先生いかがか。

及川

- ・ビジョンを見させていただいたが、完成度が高い。こういう方向・仕組みは、モデルになるような考え方が整理され、自分は高く評価している。
- ・コミュニティの担い手、地域社会への貢献は言葉は簡単だが、実現は難しい。とくに個店だけでは難しいので個店と個店を点から線、面へつなげ安心できる地域と強い個店で進めていってほしい。
- ・松井さんは今や引っ張りだこだが、地域をおろそかにせず、大切な時間を地域にいて活性化を実現して、それから他の応援をしていただきたい。

小出

- ・とても素晴らしい話。まちゼミ、頑張る個店もすばらしい。その先頑張る集団であってほしい。
- ・まちなか居住も大事。住む人も増える。

- ・行政も含めて一緒に働く場面、シンボリックなものができるといい。市に連携していただきたいと思う。

加藤副市長

- ・本日、市長の定例記者会見があり、時間の大半を松坂屋撤退後の跡地についてのやり取りに費やされた。
- ・撤退前から、このあたりは新文化会館の3つの候補地の1つにあげられていた。そこで、松坂屋の土地を市が取得して新文化会館をと思っている人が多い。しかし、現市民会館は16,000㎡あり、オリエンタルデベロッパーの持つ松坂屋の土地は4,800㎡。大ホール、中ホールを整備すると最低でも1万㎡必要だ。撤退からすぐどうこうできる話ではない。北側にセルビが6,000㎡強ある。あのあたりにつくるとなると、セルビ+松坂屋跡地かセルビ+平面駐車場の活用かになる。地権者の意向と市の思いが一致しないとすぐ何かができる状況ではない。
- ・複合開発については、公共だけでも民間だけでも無理。ほかの民間業者が入らないと成立しない。意向調査もしているがなかなか厳しい状況だ。
- ・とはいえ、中心市街地の活性化を含め、重要な課題と思って事業化に向けて取り組んでいきたいと思っている。

平松

- ・りぶらを作れば活性化するだろうと思って作った。そしてまた公共施設を作れば活性するか。それだけでは難しい。このフォーラムを通じて、診断助言事業を通じて考えていきたい。
- ・政権交代で国の状況も変わってきている。市のやり方としてはバリエーションを考えながら進めていきたい。

及川

- ・政権交替で国やまちが変わるのはおかしな話で、関係者の方々が一体となって国にアピールしていく熱意が国の政策をも動かしていくと思う。
- ・この事業は診断助言するだけで、まちづくりは市の皆さんがすること。自信を持って必要な手続きをとっていただきたい。

7) 質疑応答 (会場の市民)

- ・どうしたら活性化したことになるか。人が行き交うことが第一。ドキドキするまち、期待感のあるまちであることと思う。提言をしたい。味噌崎プロジェクトを10社と契約して実施している。楽しんで面白いと思ってほしい。そう認識していただき、市にも応援してほしい
- ・縦割り行政の弊害がある。イベント広場が年に2~3回しか使われない。図書館にも人が大勢来るがすぐ帰ってしまう。フォーラムでカッコイイ難しいことばかり言っていないで、露店などを出して、できることをすぐやればいい。
- ・東京、メキシコシティで暮らしてきたが、今岡崎が一番面白い。このまちが好きで何とかしたい人が大勢いて、なんとかつながりたいと思ってきている。日本全国どこも全然うまくいかない。素晴らしい計画を作っても自分たちのものになっていないと動いていかない。自分たちでできることを考えることが大事だと思っている。このフォーラムの場こそが自分で考えて進めていく第一歩だと思う。
- ・新文化会館に来てほしいというが、文化会館をどう活用してどう仕組みを作り、どうやって幸せになるか、市民と一緒に発言して関わらないといけない。新しい仕組みというより、連携しないといけない。これが、今のまちづくりで本当に必要なこと。

- ・新文化会館はハコがほしいのではなく、目的が大事と思っている。誰に使ってほしいか。自分は今ある市民会館へ年に1回程度しか行かない。既に文化はある。それらをつないでいく機能が文化会館と思っている。

小出

- ・岡崎でやられている計画は計画を進めるうえで間違っていないと正直思っている。「アクション」が大事で、まち全体でアクションを起こすのが一番のポイントとお話したかった。皆さんが答えを言っている。ディテールでは言いたいことはいろいろあるが、期待感の持てる場所と思うので、時間をかけて持続的なアクションを特に民間が力を入れていっていただきたい。


及川

- ・行政・まちづくり関係者・市民で話し合えたと思う。今日がキックオフと思ってアクションを起こしてほしい。皆さんがおっしゃる通り、文化会館は目的ではなく、周辺が魅力を拡大するようにしないといけない。

8) 閉会のご挨拶 岡崎市副市長 加藤 邦彦

- ・長時間にわたりありがとうございました。両先生、パネラーの皆さんもありがとうございました。会場からも積極的な発言をいただいた。関心の高さがよくわかった。魅力的な中心市街地とはいろんな論があると思うが、皆さんと一緒に考えを深め、よりよい施策を打ち出していきたい。





中心市街地活性化フォーラム

～活性化のために取り組むべきことは何か～

平成22年2月1日

市町村の中心市街地活性化の取組に対する診断・助言事業 (経済産業省) 報告会

